



JAグループ青森四連  
会長

### 乙部輝雄

明けましておめでとうございます。

組合員をはじめ役職員の皆様におかれましては、希望に満ちた新年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

また、組合員・役職員の皆様が一丸となり地域農業の振興や地域社会の発展に向け、日頃より多大なご尽力をされていることに対しまして、あらためて敬意と感謝を申し上げる次第であります。

さて、昨年、青森の農業は、目立った自然災害や農作物の被害もなく、概ね平年並みに推移しました。りんごにおいては、春先の天候不順により、結実障害が発生し収量の減少も懸念されておりましたが、概ね順調な生育となり、収量は確保され、平年と比べ高値となりました。米においては、旺盛な市場での需要増大を受けて、令和6年産米の概算金が前年産に比べて大幅に向上しました。野菜においては、8月の高温の影響により品質に一部影響があったもののおおむね順調な生育となりました。一方、畜産酪農においては、飼料等の資材価格の高騰や牛肉価格の低迷等によって非常に厳しい経営状況であり、再生産可能な対策が急務であります。

農業・JAをとりまく環境を見ますと、食料安全保障に対する関心が高まり、国内農業の価値が見直される一方で、農業従事者の減少・高齢化、燃料や肥料、飼料などの生産資材価格の高止まりにより厳しさを増しており、担い手の確保や生産性の向上、農業に対する理解促進等様々な課題に直面しています。

こうした状況の中、昨年は「農政の憲法」といわれる食料・農業・農村基本法が改正されました。まさに我が国農業の歴史的な転換点の年となりました。

改正法に位置付けられた「食料安全保障の確保」、「適

正な価格形成の実現」など、今後新たな基本計画に向けた検討が具体化されます。

JAグループでは、施策の具体化と中長期にわたる万全な予算、確保が図れるよう生産現場の声を届けられるよう全力で取り組んでまいります。

また、昨年12月に、「今こそ結集協力の力～青森の農業と地域社会のくらしを守るために～」をスローガンに掲げ第30回JA青森県大会を開催しました。これは変化する環境下であっても組合、地域の仲間とともに協同の力を発揮するという協同組合の本来の姿、原点に立ち返り、将来にわたって希望を持てる農業と地域社会を実現できる組織としての役割を果たすという思いを込めています。

この大会では、4つの重点目標（「食料・農業基盤の確立と担い手支援」「農政活動の強化と豊かなくらしの実現」「組織・経営基盤の強化」「農業・JAに対する理解・共感の醸成」）を掲げ、取り組むことを決議しました。

これらの重点目標を通じて、協同活動と総合事業を好循環させることで、組合員・利用者との接点づくり、関係強化を図り、営農とくらしに貢献し、また活力ある地域社会の実現に向け、行政等関係機関とも連携し、しっかりとその対応を図ってまいります。

さて、今年の干支は巳です。この巳の字は蛇の姿を表しており、蛇は脱皮を繰り返して成長することや、その生命力の強さから、「復活と再生」を連想させるとともに長寿なことにちなんで「神の使い」として崇められてきました。

巳年にあやかり「農業の持続的な発展」、「適正な価格形成の仕組みの具体化」等の実現に向けて、相互扶助の精神のもと組合員、役職員が一致団結され、この難局を打破し力強く邁進されることを願ってやみません。

県連としては、引き続き、JA経営の組織基盤・経営基盤強化および各事業への支援を通じて、皆様のご期待に応えるよう取り組んでまいりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。

結びに、今年が皆様にとって明るく希望に満ちたすばらしい一年となりますよう心から祈念いたしまして、年頭のご挨拶といたします。

# J A 組合長・常勤役員および中央会・ 連合会代表者等紹介

新しい年を迎え皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

J A グループ青森

## 青森地区

### J A 青森



しか ない かつ ゆき  
鹿 内 克 之  
代表理事組合長



た なか まさ てる  
田 中 正 輝  
代表理事専務  
(総務担当)



あい さか かず なり  
相 坂 一 成  
代表理事常務  
(信用担当)



ふく し こう き  
福 士 幸 樹  
代表理事常務  
(経済担当)

### J A 青森



なり た しん いち  
成 田 真 一  
常勤監事  
(員外監事)

## 五所川原地区

### J A つがるにしきた



やま なか みつ はる  
山 中 満 春  
代表理事組合長



なり た はる みつ  
成 田 春 光  
代表理事専務



お の しん こ  
小 野 信 吾  
代表理事常務  
(信用担当)

### J A つがるにしきた



かな ざわ さかえ  
金 澤 榮  
代表理事常務



き むら まさ ひろ  
木 村 正 祥  
常勤監事  
(員外監事)



やま もと やす き  
山 本 康 樹  
代表理事組合長



さい どう かつ のり  
斉 藤 勝 徳  
代表理事専務  
(信用担当)



く どう りょう じ  
工 藤 良 二  
代表理事常務  
(経済担当)

### J A ごしょつがる

J A ぶしょうつがる



みうらかつひろ  
三 浦 勝 裕  
常勤監事  
(員外監事)

● 弘前地区

J A つがる弘前



あま ない まさ ひろ  
天 内 正 博  
代表理事組合長



お やま さとる  
小 山 悟  
代表理事専務



まる おか よし あき  
丸 岡 義 昭  
代表理事専務

J A つがる弘前



おお た しゅん いつ  
太 田 俊 逸  
信用担当専務



なか た たく ひこ  
中 田 拓 彦  
常勤監事  
(員外監事)



おお ば つとむ  
大 場 勉  
代表理事組合長



み かみ りゅう き  
三 上 隆 基  
専務理事



やま うち とし ひこ  
山 内 利 彦  
理事金融共済部長  
(信用担当専任)

J A 相馬村

J A 津軽みらい



な ら やすし  
奈 良 寧  
代表理事組合長



むら かみ かつ のり  
村 上 勝 憲  
代表理事専務  
(総務管理担当)



やま ぐち たか よし  
山 口 貴 佳  
代表理事専務  
(販売担当)



お さ い ただ みち  
小 山 内 忠 道  
代表理事専務  
(営農購買担当)



つ がわ ひろ ゆき  
津 川 博 征  
代表理事専務  
(信用担当専任)

J A 津軽みらい

J A 常盤村養鵜



いち のへ まこと  
一 戸 誠  
常勤監事  
(員外監事)



いし ざわ せい こう  
石 澤 清 行  
代表理事組合長



の と や とも たか  
能 登 谷 知 剛  
専務理事



● 十和田地区

J A 十和田おいらせ



はたけ やま かず お  
 畠山 一男  
 代表理事組合長



と さわ やす ひろ  
 斗 澤 康 広  
 代表理事専務



こ むかい ゆたか  
 小 向 豊  
 常務理事  
 (営農経済担当)



ば ば さと み  
 馬 場 聡 美  
 常務理事  
 (信用事業担当専任)

J A 十和田おいらせ

J A ゆうき青森



たか むら つかさ  
 高 村 司  
 常勤監事  
 (員外監事)



てん ま かず ひろ  
 天 間 一 博  
 代表理事組合長



むら やま じゅん いち  
 村 山 淳 一  
 代表理事専務  
 (営農経済担当兼務)



はら こ たかし  
 原 子 孝  
 代表理事常務  
 (金融共済担当)



の だ が し ら かず よし  
 野 田 頭 和 義  
 代表理事常務  
 (酪農畜産担当)

J A ゆうき青森

J A おいらせ



なり た たかし  
 成 田 高  
 常勤監事  
 (員外監事)



なか やしき かず お  
 中 屋 敷 一 夫  
 代表理事組合長



いま で が わ ひろし  
 今 出 川 弘  
 代表理事専務



こ ひ る い ま き ま さ し  
 小 比 類 巻 正 志  
 常務理事



すみ いしじろう  
 角 石 二 郎  
 常勤監事

● 八戸地区

J A 八戸



みず こし ぜん いち  
 水 越 善 一  
 代表理事組合長



お ばら よし ひろ  
 小 原 良 洋  
 代表理事専務



わか ばやし まさ ひで  
 若 林 政 秀  
 代表理事常務  
 (営農経済担当)



き むら てる お  
 木 村 照 男  
 代表理事常務  
 (信用・共済担当)

J A 八 戸



なか さわ ゆたか  
中 澤 裕  
常勤監事  
(員外監事)

● 中央会・連合会

J A 青 森 中 央 会



おと べ てる お  
乙 部 輝 雄  
代表理事会長



あま ない まさ ひろ  
天 内 正 博  
副会長理事



の 野 る ふみ と  
野 呂 文 人  
常務理事



J A バ ン ク 青 森



きり はら とよ ひこ  
桐 原 豊 彦  
支店長



むら た ひろ ゆき  
村 田 裕 之  
副支店長



ひら い けん  
平 井 健  
副支店長

J A 全 農 あ お も り



なり た とも ひろ  
成 田 具 洋  
県本部長



ささ もり とし みつ  
笹 森 俊 充  
副本部長



おさ ない さとる  
長 内 暁  
副本部長



ぬま た ひろ ふみ  
沼 田 博 文  
本部長



か さい しん じ  
葛 西 真 司  
副本部長

J A ア オ レ ン



お が さ わ ら や す ひ こ  
小 笠 原 康 彦  
代表理事会長



か さい みち ゆき  
葛 西 亨 之  
参事



か ま た ま さ ゆ き  
鎌 田 政 行  
取締役センター長



く どう の り あ き  
工 藤 憲 明  
副センター長

(株) 青 森 県 農 協 電 算 セ ン タ ー



# フラッシュ

## JAつがるにしきた



### ハボタン収穫・荷造り急ピッチ (12/17)

JAつがるにしきた管内では、クリスマスや年末の需要に向けて、ハボタンの収穫や荷造り作業が急ピッチで進んでいる。

長さ60センチになるよう収穫し、段ボールに箱詰めした後JAへ搬入。管内では12月23日頃まで収穫が続き、県内外の市場に出荷する。

## JA青森



### 青森市産秋掘りナガイモ (12/3)

JA青森羽田野菜集出荷センターで秋掘りナガイモの出荷が進んでいる。選果作業は作業員6人と選果場担当職員1名の計7人で行われている。

2024年産ナガイモの生育状況は、例年に比べると細身だが長さは十分。4Lが1番多く、A品率は6割程度。初日は106箱(1箱10キ)が出荷された。

## JAつがる弘前



### リンゴ病害虫防除について理解を深める (12/3)

JAつがる弘前は、岩手県花巻市で共同防除組合代表者研修会を開いた。共同防除組合・大口購入者ら134人が参加した。

参加者は、一部の殺虫剤に対する抵抗性の発達や、近年の高温の影響で害虫の発生時期が変化していること等、現状の問題を共有し来年度に向けた害虫防除について学んだ。

## JAごしよつがる



### ジュース用リンゴ籠空け (12/11)

JAごしよつがるは、五所川原市の2ヶ所のりんごセンターで、リンゴジュースの原料となる2024年産加工用リンゴの籠空け作業を行った。

リンゴジュースは9000箱(1箱30缶入り)の製造を計画。各課からの応援職員が集まり、王林1600箱、ジョナゴールド800箱のコンテナを籠に空けた。

## JA相馬村



### 一年を通して学んだリンゴ栽培 食べて完結 (12/13)

弘前市立相馬小学校の3年生17名は、JA女性部の指導のもと、アップルパイとリンゴクレープのお菓子作りを体験した。

弘前市の主産業である農業、特に盛んなリンゴ作りを春から実際に行い学んできた児童らは、お菓子を前にこの日一番の笑顔を見せた。

JA津軽みらい



スチューベン出荷終盤 (12/3)

JA津軽みらい石川支店管内の石川青果センターでは、10月下旬から行っている2024年産ブドウ「スチューベン」の出荷が終盤を迎えている。

贈答用の出荷が盛んで、1日当り約400箱（1箱2\*<sub>0</sub>）を箱詰めし、年末までに全国へ約1万箱の出荷を計画している。

JAゆうき青森



ミニデイサービスで地域交流図る (12/10)

JAゆうき青森の高齢者助け合い組織「えがおの会」は、七戸町で今シーズン初のミニデイサービスを開催した。地域の高齢者11人が参加し、手芸活動を通して交流を深めた。

参加者らは、会員たちと共にカラフルなティッシュカバーを完成させた。昼食は、地域で収穫したナガイモのすいとんや漬物等が振舞われた。

JA十和田おいらせ



あつあつ鍋で心あたたまる交流 (12/7)

JA十和田おいらせ青年部は十和田市で、「おらほの自慢の野菜ばまんつ食ってみなが」と題した体験型婚活イベントを開いた。20〜40代の男女12人が集まり、男性が持ち寄った自慢の野菜でチームごとに調理。あつあつの鍋を囲みながら、心温まる交流を楽しんだ。

JAおいらせ



プリザーブドフラワー教室とフラワーアレンジ教室 (12/2)

JAおいらせ女性部六戸支部は、プリザーブドフラワー教室とフラワーアレンジ教室を開き、14人が参加した。

両教室共に「クリスマス」をテーマに作品を仕上げた。プリザーブドフラワーは生花を特殊な液体につけ長期間の保存を可能にし、生花のような柔らかな質感でありながら、生花では不可能な色味を楽しめる。

JA八戸



新郷小学校児童がそば打ち体験 (12/2)

JA八戸女性部新郷地区の部員6人は、新郷村立新郷小学校4年生の児童10人と一緒にそば打ち体験を行った。

児童らはそば粉をボールの中でこね、まな板の上で麺棒を使って薄く引き伸ばし、慎重に包丁を入れた。細く上手にできたり、全体的に太めの麺になったりと、一人ひとりの個性あふれるそばが出来上がった。

## 第30回 J A 青森県大会

J Aグループ青森は12月5日、青森市のリンクモア平安閣青森市民ホールで「今こそ結集！協同の力 青森の農業と地域のくらしを守るために」をテーマに、第30回 J A 青森県大会を開き、県内 J A ・連合会から約500人が参加した。

農業人口の減少や高齢化による農業生産および農業経営基盤の弱体化等、県内農業の現状と課題を共有し、今後3年間で取り組む4つの重点目標を決議した（詳細は絆12月号特集を参照）。

J A 青森中央会の乙部輝雄会長は「地域の仲間と共に協同の力を発揮するという協同組合の本来の姿・原点に立ち返り、この青森の大地で、将来にわたって希望を持てる農業と地域社会を実現できる組織としての役割を果たしていく。組合員、J A利用者との関係強化を図りながら、活力ある地域社会を実現していく」と力強く述べた。



▲あいさつする乙部輝雄会長

## こども宅食おすそわけ便

J Aグループ青森と県農協農政対策委員会は11月24日、青森市のグループホームあんしんハウスで行った「こども宅食おすそわけ便」で県産米「まっしぐら」約100<sup>kg</sup>を贈呈した。

県産米の無償提供は、子育て世帯や生活に困りごとを抱える方を食で支援するため2021年度から実施し、今年で4年目を迎える。

本年度は県社会福祉協議会を通じて「まっしぐら」4.6<sup>ト</sup>を「こども宅食おすそわけ便」を運営する23団体、こども食堂等を支援する83団体、社会福祉法人122法人に贈呈する。

J A 青森中央会の野呂文人常務は「皆さんの笑顔が見られてよかった。これからも地域貢献活動を色々な形でやっていきたい」と語った。



▲「まっしぐら」を手渡す野呂常務

## 青森県家の光大会

J A 青森中央会と県 J A 女性組織協議会は11月27日、青森市の県農協会館で2024年度青森県家の光大会を開いた。県内 J A から約130人が参加し、記事活用体験発表や普及・活用優良表彰等を行った。また家の光三誌の活用運動方針等を盛り込んだ「大会申し合わせ」を採択した。

記事活用体験発表では3人の地区代表が発表。J A つがる弘前女性部の川村静さんが最優秀賞に輝いた。川村さんは、家の光に掲載された手芸作品「さっとカブリーナ」を女性部の仲間と共に制作した経路を紹介。川村さんは2月に神奈川県での全国大会に県代表として出場する。

優秀賞は J A つがるにしきた女性部つがる支部の奈良秀子さんと J A おいらせ女性部六戸支部の山本ヒデさんが受賞した。

普及・活用優良表彰では家の光三誌の普及・活動に貢献した J A を表彰した。表彰 J A は次のとおり。

- ▽「家の光」高率普及優良 J A 表彰  
＝相馬村、おいらせ、八戸
- ▽「家の光」12月号普及優良 J A 表彰  
＝つがる弘前、相馬村、津軽みらい、十和田おいらせ、ゆうき青森、おいらせ
- ▽「ちゃぐりん」8月号普及優良 J A 表彰  
＝つがる弘前、十和田おいらせ、おいらせ
- ▽「家の光三誌」普及・活用優良団体表彰（J A 女性部表彰）  
＝青森、つがるにしきた、ごしょつがる、つがる弘前、津軽みらい、十和田おいらせ、ゆうき青森、おいらせ、八戸
- ▽「家の光三誌」普及・活用優良団体表彰（J A 青年部表彰）  
＝つがるにしきた、ごしょつがる、つがる弘前、十和田おいらせ



▲最優秀賞に輝いた川村さん

## 第49回青森県JA青年大会

県農協青年部協議会は11日29日、青森市の県農協協会館で第49回青森県JA青年大会を開き、約70人が参加した。

JA青年の主張発表ではJAおいらせ青年部の佐々木尚史さん、JA青年組織活動実績発表ではJAつがるにしきた青年部の工藤康記さんが最優秀賞に輝いた。2人は1月14、15日、北海道での東北・北海道ブロックJA青年大会に県代表として出場する。

佐々木さんは、持続可能な農業の取組みとして「5畝休む余裕を持ってみませんか」と発表。心も体も限界まで追い込む働き方ではなく、たかが5畝、されど5畝という余裕が自分も家族も大事にすることにつながると述べた。

工藤さんは、消費者と生産者それぞれの理想的なコメの価格のギャップの調査内容を発表。青年部が出店したイベントでアンケート調査を行い、その結果から、消費者に生産コストを正しく理解してもらうことでギャップ解消の可能性があると述べた。優秀賞は次のとおり。

### ▽JA青年の主張発表

＝樋口成紀さん（JAごしょつがる青年部）

### ▽JA青年組織活動実績発表

＝千葉滉成さん（JA十和田おいらせ青年部）

同大会では全青協主催の「2024年度手づくり看板コンクール」「PR動画コンクール」の表彰も行った。入賞作品は次のとおりで、全青協の同コンクールに推薦する。

### ◇手作り看板コンクール

▽最優秀賞＝JA十和田おいらせ青年部三本木支部

▽優秀賞＝津軽みらい農協常盤地区青年部

▽優良賞＝JA十和田おいらせ青年部七戸支部

### ◇PR動画コンクール

▽最優秀賞＝JAつがる弘前青年部



▲最優秀賞の佐々木さん（左）と工藤さん

## JA自己改革推進会議

JA青森中央会は12月3日、青森市の県農協協会館で2024年度JA自己改革推進会議を開き、県内JAから約30人が出席した。

24年10月の第30回JA全国大会決議を踏まえた今後のJA自己改革推進や実践サイクルについて、JA全中JA改革・組織基盤対策部の内藤健

貴氏が説明。これまでの取組実績を「見える化」して組合員に伝え、さらなるニーズを捉えて事業計画に落とし込むことで、不断の自己改革の深化を図っていくことが重要であると話した。

また、JAつがるにしきた、JAごしょつがる、JA十和田おいらせの3JAが取組み事例を紹介した。



▲説明するJA全中の内藤氏（左奥）

## JA広報担当者合同会議・日本農業新聞通信員研修会

JA青森中央会は12月12日、青森市の県農協協会館でJA広報担当者合同会議と日本農業新聞通信員研修会を開き、県内JA・連合会の課長や日本農業新聞通信員等18人が参加した。

会議では、2024年度日本農業新聞青森県「優績通信員」四半期表彰や、次年度の青森県版企画記事等について確認した。また、各JAの24年度上期の広報活動の取組実績や下期の活動計画を報告し、情報共有を図った。

研修会では、23年度JA広報大賞総合の部で「大賞」を受賞したJA新潟かがやきの講師が、WEBにて「ターゲットを意識した広報活動」をテーマに研修を行った。JA新潟かがやきの広報戦略や考え方を学んだ参加者は「広報の体制や戦略がしっかりと作られていて、連携が取れていると思った。自分たちの広報活動にも生かしていきたい」と話した。



▲JA新潟かがやきの講演を聞く参加者ら

## 次世代リーダー育成研修会「修了レポート発表会」

JA青森中央会は12月13日、青森市の県農協協会館で2024年度次世代リーダー育成研修会「修了レポート発表会」を開いた。

発表会は、宮城県名取市のJA学園宮城等で行った2024年度次世代リーダー育成研修会（JA戦略型中核人材育成研修）を受講した県内JA職員8人の他、審査員として青森公立大学経営経済学部の生田泰亮准教授をはじめ、県内JAの役職員らが参加した。8人の受講者は、研修会プログラムを通じて得た知識等を基に、自JA事業等に

対する改革・提案を修了レポートにまとめ、発表した。

審査の結果、JAつがる弘前の成田康伸さんが最優秀賞を受賞した。成田さんのテーマは「りんご産業の維持発展に向けて～農地の集約と基盤整備への取組み～」。

リンゴ産地の労働力・新規就農者確保に向け、洗い出した課題の解決策として、リンゴ園地の面的集積やJAとの特定農作業受託契約等を提案した。優秀賞にはJA津軽みらいの福川菜美子さん、JA十和田おいらせの工藤英明さんが輝いた。

同研修会は、将来JAを担い得る中核的な人材を育成することを目的に、東北6県のJA中央会が共催する。最優秀賞の成田さんは、2月に開かれるJA戦略型中核人材育成研修全国研究発表会に青森県代表として出場する。



▲最優秀賞の成田さん

### 第43回青森県「ごはん・お米とわたし」 作文・図画コンクール表彰式

JA青森中央会は12月15日、青森市のホテル青森で、第43回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式を開いた。

作文部門で若宮遙希さん（青森市立浦町中学校2年）の「当たり前のご飯のありがたさ」、図画部門で三浦一花さん（青森市立浪打中学校3年）の「すくすく育つ」が最高賞の県知事賞に輝いた。

同コンクールは、お米・ごはん食の大切さを、小中学生に理解してもらうことを目的に毎年実施しており、24年度は作文部門で214点、図画部門で251点の応募があった。

若宮さんの作品は「家族に訪れた逆境の中で、家族揃ってご飯を食べられるありがたさを描いた作品。母親と弟のために何かをしようと決意し、一生懸命お米を研ぐ小学3年生の若宮さん。その懸命な姿や、冷たくなった手を両手で包み込む母親の姿が、読み手の胸を打つものがあった」として評価された。

三浦さんの作品は、「やわらかな日差しが差し込む部屋で、2人が仲良くお寿司を食べる場面を、三浦さんならではの奥行きのある構図と優しい色合いで丁寧に表現した素晴らしい作品。表情や柔らかな髪の



▲知事賞を受賞した若宮さん（左）と三浦さん

毛、可愛い手などの表現が細部にわたって巧みに描写されている」と評価された。

その他、入賞作品は次のとおり。

- ▽青森県教育委員会教育長賞  
作文部門＝丸谷鈴さん  
（八戸市立小中野小学校2年）  
図画部門＝中居凜鳳さん  
（八戸市立是川小学校5年）
- ▽青森県農協中央会会長賞  
作文部門＝木戸凜さん  
（外ヶ浜町立三厩小学校6年）  
図画部門＝免内蒼士さん  
（七戸町立城南小学校2年）

また、11月中旬に実施された第49回（全国）「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの審査会において、以下の皆様が受賞された。

- ▽内閣総理大臣賞  
作文部門＝若宮遥希さん  
（青森市立浦町中学校2年）
- ▽文部科学大臣賞  
図画部門＝櫛引小京さん  
（青森市立筒井南小学校2年）
- ▽優秀賞  
図画部門＝三浦一花さん  
（青森市立浪打中学校3年）



▲受賞者らの記念撮影の様様

### 行事（1/10～2/10）

- 1月
  - 10日 県農協農政対策常任委員会、定例理事会（県農協会館）
  - 15日 県参協定例会（県農協会館）
  - 15～16日 監督者研修会2（県農協会館）
  - 22日 新採用職員フォロー研修会（県農協会館）
  - 24日 営農指導員認証試験（県農協会館）
  - 29～30日 初級職員研修会2（県農協会館）
- 2月
  - 3～4日 管理者研修会2（県農協会館）
  - 6日 内部監査士試験（県農協会館）
  - 7日 定例理事会（県農協会館）

# JAグループって、知ってる？



乃木坂46は、JAグループを応援しています。

## JAグループとは・・・

JAグループは、農業に携わる皆さんが、よりよい地域・社会や暮らしを作っていくための、**助け合い**の組織です。私たちの暮らしに欠かせない食と、それを生み出す**農業**や**地域社会**を、**様々な事業**を通して支えています。

### JAグループは、日本の農業を様々な事業で支えています。

JAグループは、**協同組合**として、農業に携わる皆さんを、様々な事業で総合的に支えています。農畜産物をまとめて流通・販売したり、肥料や家畜のエサなどを共同で購入したり。農業に必要な技術のサポートや、農業を始める方たちの支援も行っています。

### 地域の暮らしを様々な事業で支えています。

JAグループは、金融や共済といった事業のほか、地域の病院や高齢者福祉施設も運営しています。また、買い物に不便な地域に移動購買車を走らせるなど、**助け合いの精神**で、地域の暮らしを支え続けています。



### JAグループが提唱する国消国産

私たちの**国**で**消費**する食べものは、できるだけこの**国**で**生産**するその考え方を

**国消国産**といいます。



### JAグループの目指す姿(2030)

- ① 持続可能な農業を実現
- ② 豊かで暮らしやすい地域共生社会の実現
- ③ 協同組合としての役割の発揮



JAグループを知る



メンバーが調理を楽しむ動画等を公開中！  
ぜひアクセスしてください！

乃木坂46 国消国産



JAグループ

耕そう、大地と地域の未来。

乃木坂46

## 2024年度ライフプランサポーター意見交換会を実施

農林中央金庫青森支店は、11月22日に2024年度ライフプランサポーター意見交換会を実施した。8JAから計11名が参加。

ライフプランサポートとは、ニーズに寄り添った提案型セールスを実践することで取引深耕を図るための取組みであり、「JAをメインバンクとする利用者」を増加させ、利用者基盤を構築していくことを最大の目的としている。

当日はライフプランサポーターの役割や窓口推進にかかる情報提供を農林中金から行ったのち、3グループに分かれ、計3つのグループディスカッションを実施した。

グループディスカッションでは、窓口リーダーとして支店全体の推進をどのように実践しているかをテーマに、各推進商品の推進手法や話法、資料等について意見交換を実施。各JAの窓口リーダーが日々の推進活動等で抱える悩みや効果的だった解決策を共有しあい、今後の一層の推進強化に向けてつながりを深めた。



▲当日の様子

## JAバンク青森初の小学生向け金融教育を実施！

12月11日、JAバンク青森では初開催となる地域金融教育を実施した。

地域金融教育とは、現行JAバンク青森中期戦略で掲げる地域領域の取組の一環として農林中金より展開しており、今回、JA津軽みらいが県内JAで初めて実施したもの。主に小学3～6年生を対象としてお金×農業をテーマとした授業を行い、グループワークを通じてお金やその使い方に対する理解を深める。

当日は5名1組でグループを作り、農家経営シミュレーションゲームを実施。それぞれ「社長、副社長、経理部長、営農部長、販売部長」で役割を決め、何にお金を使うべきか、どのタイミングでお金を使うべきか等、グループごとに活発な議論が行われた。

本取組は、地域の小学生に金融の知識を深めてもらうとともに、JAバンクの存在を知ってもらうきっかけとなるため、来年度以降も継続的に実施していく予定としている。



▲当日の様子

### 行事（1/10～2/10）

#### 農林中央金庫

1月

16日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）

23～24日 相続実務研修（WEB）

28日 反社会的勢力対応研修（WEB）

2月

6日 青森県JA信用担部課長会議（県農協会館）

#### 農協電算センター

2月

7日 定時取締役会（県農協会館）

## やすらぎホール音楽祭

JA全農あおもりは11月23日、「やすらぎホール音楽祭」を開いた。場所は、黒石市の津軽葬祭センター「JAやすらぎホール黒石」。入場は無料で、約300人の来場者で賑わった。

S.D.C.C DANCE STUDIOによるダンスパフォーマンス、正調黒石ねぶた囃子、津軽民謡歌手のかすみさんの民謡ショーや、ものまね芸人のホリさんとハリウリサさんによるものまねステージなど、会場を盛り上げていた。

また、60歳以上先着40名様には、生前遺影写真撮影会を無料で提供した。

来場者からは「イベントに参加してよかった」「楽しかった」などの声があり、今後もJA葬祭ホールの認知促進に努めていく。



▲民謡ショーを披露するかすみさん

## 「あおもり米フェア2024」を開催

JA全農あおもりは11月30日に青森米PRイベント「あおもり米フェア2024」を、愛知県名古屋市金山総合駅コンコースイベント広場にて開催した。

イベントでは、青森県産米の「青天の霹靂」「はれわたり」「まっしぐら」の精米と、3銘柄を食べ比べできる「あおもり米食べ比べおにぎり弁当」



▲青森米をPRした「あおもり米フェア2024」

を販売した。精米を購入した方を対象に、商品券や青森県産ながいも、りんごジュースが当たる抽選会や、青森県産米3銘柄の試食も実施した。

CBCラジオとタイアップし、前日の告知や当日のイベント会場から生中継も行い、クリーンライスレディあおもりや生産者も参加し、会場はにぎわっていた。

また、11月23日・24日には、福岡県福岡市福岡三越にて、「青天の霹靂」の試食販売も実施した。

## 「青森フェア in 鹿児島」開催

JA全農あおもりは12月14日・15日の2日間、鹿児島市のおいどん市場与次郎館で、青森県産品の販促イベント「青森フェア in 鹿児島」を開いた。JA鹿児島県経済連とのコラボフェアは6回目。

同フェアではりんご、にんにく、ながいも、精米など県産農産物やその加工品を38品目販売したほか、県産りんごを使用したりんご飴やごぼうの唐揚げなど調理販売も行った。そのほかブランド米「青天の霹靂」やりんご、ジュースの試食・試飲を実施し、来場者に県産品の魅力をPRした。

全農あおもり運営委員会の乙部輝雄会長は「このフェアは、鹿児島と青森の魅力ある農畜産物を知ってもらい、食べてもらうことを目的に令和3年から開催している。青森の自慢の農産物を産地から直送でお持ちしたのでフェアを楽しんでほしい」と開会のあいさつを行った。



▲挨拶をする乙部会長

### 行事 (1/10~2/10)

1月	
10日	運営委員会 (県農協会館)
2月	
7日	運営委員会 (県農協会館)

## JA共済青森県小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクール展示 会の開催

JA共済連青森は、11月9・10日、青森市青森県観光物産館アスパム（1階イベントホール）、16・17日、弘前市さくら野弘前店（4階）、23・24日、おいらせ町イオンモール下田（1階パセリー菜横広場）で「令和6年度JA共済青森県小・中学生書道・交通安全ポスターコンクール展示会」を開催した。

展示会では、書道半紙・条幅の部、交通安全ポスターの部の中から選ばれた「最優秀賞」、「特選」、「準特選」の81作品が展示され6日間で多くの来



▲展示会の様子（9・10日観光物産館アスパム）



▲展示会の様子（16・17日さくら野弘前店）



▲展示会の様子（23・24日イオンモール下田）

場者が会場を訪れた。

来場者は「小・中学生が書いたとは思えないほど上手だ」、「来年は賞を取れるように頑張りたい」等たくさんの声を聴くことができた。

## 共済担当部課長会議の開催

JA共済連青森は、11月21日に青森県農協会館で「共済担当部長会議」を開催した。

開催にあたり、沼田本部長は日頃から共済事業全般に尽力いただいていることと、Oneチームとなって推進活動に取り組んでいただいていることに対して感謝の言葉を述べた。陸奥湾で何度か発生している地震について触れ、今一度、建物・家財の保障点検をしていただくようお願いし、挨拶とした。

会議では、①令和6年度JA普及推進目標達成に向けた総仕上げの取組み、②令和7年度から9年度JA共済3か年計画（原案）、③令和7年度事業計画書（業案）、④令和7年度業務計画書（原案）、⑤令和7年度JA普及推進・保全計画策定にかかる支援、⑥令和6年度共栄火災商品目標達成に向けた今後の取組み、⑦当面の行事予定について協議が行われた。



▲挨拶をする沼田本部長

### 行事（1/10～2/10）

- |     |                  |
|-----|------------------|
| 1月  |                  |
| 10日 | 運営委員会（県農協会館）     |
| 2月  |                  |
| 4日  | 共済事業担当常勤理事会議（東京） |
| 7日  | 運営委員会（県農協会館）     |

## 「みどりチェック」に取り組みましょう！ (環境負荷低減のクロスコンプライアンスについて)

どうして農林水産業で環境負荷低減に取り組まなければならないの？



農林水産業は環境の影響を受けやすいことに加え、農林水産業自体が環境に負荷を与えている側面もあります。

このため、日頃の事業活動の中で新たな環境への負荷が生じないように、7つの基本的な取組を実践することが重要です。

「みどりチェック」に取り組むことで、皆様が日頃から環境にやさしい取組を実践されていることを明らかにし、消費者の理解と評価を深めることにもつながります。

「みどりチェック」は誰もが取り組める環境負荷低減への「初めの一歩」です。

### 「みどりチェック」の7つの基本的な取組とポイント

<input checked="" type="checkbox"/> 適正な施肥  例えは... 肥料のムダをなくす	<input checked="" type="checkbox"/> 適正な防除  農業を正しく使う	<input checked="" type="checkbox"/> エネルギーの節減  省エネを行う	<input checked="" type="checkbox"/> 悪臭・害虫の発生防止  臭いや害虫の発生源の管理	<input checked="" type="checkbox"/> 廃棄物の発生抑制 資源利用・適正処分  ゴミ削減 資源の有効活用	<input checked="" type="checkbox"/> 生物多様性への悪影響の防止  不必要な防除の削減	<input checked="" type="checkbox"/> 環境関係法令の遵守  法律を守る等
--	---	--	--	--	--	---

### 「みどりチェック」の実施手続き

チェックシートの記入・提出 	申請時(しました) <input checked="" type="checkbox"/> ① 肥料を適正に保管 <input checked="" type="checkbox"/> ② 肥料の使用状況等の記録・保存に努める <input checked="" type="checkbox"/> ③ 作物特性やデータに基づく施肥設計を練計 <input checked="" type="checkbox"/> ④ 有機物の適正な施用による土づくりを練計	報告時(しました) <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	取組内容の確認 
	チェックシートの例(抜粋)		



農林水産省の補助事業等に申請する際に、チェックシートの各項目を読み、該当する全ての項目にチェックを付けて提出の上、取組を実践してください。  
 令和6年度より

取組を実践した上で、事業の報告時にチェックシートを提出してください。また、国の担当者が、現地での目視・聞き取り等により、抽出された者に対して取組内容の確認を行います。  
 令和7年度より

お問い合わせ先  
 東北農政局環境・技術課 環境戦略推進担当  
 ☎(代表) 022-263-1111 (内線 4230)

農林水産省 HP  
 「環境負荷低減のクロスコンプライアンス」  
 はこちらから！

# 2024年を振り返る

## 青森県の農業・JA主要ニュース

2024年の本県農業を振り返ると、りんごは概ね順調な生育となり、収量は確保され、平年と比べ高値となり、米は市場の需要増大を受け、令和6年産の概算金が前年産に比べて大幅に向上した。野菜も概ね順調な生育となったが、畜産酪農は、飼料等の資材価格の高騰や牛肉価格の低迷等によって非常に厳しい経営状況である。

農業・JAをとりまく環境は、食料安全保障に対する関心が高まり、国内農業の価値が見直される一方、農業従事者の減少・高齢化、燃料や肥料等の生産資材価格の高止まりにより厳しさを増している。

JAグループ青森は、令和6年12月に開催した第30回JA青森県大会にて、「今こそ結集！協同の力～青森の農業と地域の暮らしを守るために～」をスローガンとし、4つの重点目標に掲げて、課題解決に取り組んでいくこととした。

### ●オリジナル食育絵本贈呈（1/17・18）

写真①

JA全農あおもりは、食育活動の取組みとして、オリジナル絵本「おにぎりのやくそく」（全農が監修、絵本作家かとうまふみ氏が執筆）を制作した。絵本の完成を記念し、1月17日の「おむすびの日」に合わせて贈呈式を開いた。

### ●にんにくフォーラム（1/17）

JA全農あおもりは県と共催で、JA十和田おいらせ本店で「令和5年度にんにくフォーラム」を開き、入賞者や生産者など関係者らが参加した。最優秀賞として表彰されたJA十和田おいらせの佐藤茂寿さんには、農林水産大臣賞が授与された。

### ●県産ごんぼ（ごぼう）の鶏めしおむすびPR（2/6）写真②

JAおいらせ女性部とJA全農、ファミリーマートの関係者は、宮下宗一郎県知事を表敬訪問し、JAおいらせ女性部が発案した「青森県産ごんぼ（ごぼう）の鶏めしおむすび」をPRした。JA全農とファミリーマートが全国のJA女性組織のアイデアで開発した8商品のうちの1つで、東北地方で唯一選ばれた。

### ●能登半島地震被害に見舞金（3/7）写真③

県農協農政対策委員会は、東京都でJA石川県中央会に対し、能登半島地震被害に対する見舞金を贈呈した。同中央会の西沢耕一会長に目録を手渡した。

### ●鹿児島フェア in 青森（3/9・10）

JA全農あおもりは、青森市の県観光物産館アスパムで、JA鹿児島県経済連とのコラボイベント「鹿児島フェア in 青森」を開いた。約40点の鹿児島県産農畜産物・加工品を販売したほか、県産農産物も販売した。

### ●JA教材本贈呈（3/11）写真④

JA青森中央会とJAバンク青森は、小学校5年生向け令和6年度版の教材本を県教育委員会に寄贈した。教材本は県内の農林水産団体等が食農教育用に発行した「いのちはぐくむあおもりの農林水産業」とJAバンク発行の「農業とわたしたちの暮らし」の2種類。

### ●JA青森県青協 通常総会（4/8）

県農協青年部協議会は、青森市で第71回通常総会を開いた。役員や部員ら43人が出席し、提出された4議案について全て承認された。斗沢正和氏が新委員長に就任した。

1月

3月

2月

4月





4月

●能登半島地震青果会社へ見舞金（4/18）

J A全農あおもりは、能登半島地震被災地の青果会社の支援として、丸果石川中央青果株、丸果七尾青果株に見舞金を贈呈した。両社は県産品の青果物を扱う取引先で、石川県内の流通を担っている。

●台湾への地震見舞金（4/22）写真⑤

台湾東部沖地震の被災地支援として、J A全農あおもりは見舞金を贈呈した。台湾の外交窓口機関・台北駐日経済文化代表処（東京都港区）で周學佑副代表に目録を手渡した。

●令和6年度 青森県J A信用・共済事業合同推進大会（4/24）写真⑥

J Aバンク青森とJ A共済連青森は、青森市で「令和6年度青森県J A信用・共済事業合同推進大会」を開いた。信用・共済事業の更なる実績拡大と相互連携強化が目的で、県内J A役職員約120名が参加した。

●県J A女性組織協議会70周年 通常総会・記念式典（4/26）

県J A女性組織協議会は、青森市で第70回通常総会を開いた。役員や部員、J A事務局ら104人が出席し、提出された4議案は全て承認された。総会後は70周年記念式典を行い、同協議会会長や副会長を2年以上務めた部員9人を特別功労表彰した。

●令和6年度食料・農業・地域政策の推進に向けた要請（5/10）写真⑦

J A青森中央会と県農協農政対策委員会は、衆参議院会館で本県選出国會議員7人に「令和6年度食料・農業・地域政策の推進に向けた要請」を行った。特に食料安全保障の確保、適正な価格形成の実現ならびに多様な

5月

5月

農業者への施策の抜本的な拡充などの必要性を訴えた。

●J A共済きずなの青い森プロジェクト（5/28）写真⑧

J A共済連青森は、J A共済ビジネスサポート株と森林組合あおもりの協力のもと、「J A共済きずなの青い森プロジェクト」を平内町で開き、県内J A職員15名が参加した。同プロジェクトは平成29年から開いている。

6月

●やさい・花き販売懇談会（6/10）写真⑨

J A全農あおもりは、青森市で令和6年度やさい・花き販売懇談会を開いた。全国の取引会社や県内関係者ら207人が出席し、事業経過や取扱対策を決議した。令和6年度の共販目標額は、やさい293億円（前年度実績対比22億9191万円増）、花き7億円（同1億3963万円増）。

●ニンニク収穫ピーク（6/20）

全国トップクラスのニンニク生産量を誇る十和田おいらせ管内で、ニンニクの収穫が最盛期を迎えた。収穫前の降雨で大きさや形、収量が良質に仕上がった。J Aでは年間取扱高16億円超え（前年度比148%）を目指す。

●J A青森中央会等の新体制（6/28）

J A青森中央会・J Aアオレン等は、青森市で総会、理事会等を開催し、新役員を決定した。J A青森中央会の代表理事長は乙部輝雄（J Aゆうき青森）、副会長理事は天内正博（J Aつがる弘前）、常務理事は野呂文人（学識経験理事）。





7月

●スイカ出荷始まる 生育順調で甘さ十分 (7/3) 写真10

J A つがるにしきた管内の2024年産スイカの出荷が始まり、それに合わせて、鱈ヶ沢町の鳴沢りんごセンターでスイカ目揃え会を開き、生産者や市場関係者ら40人が出席し、選果基準を確認した。

●2024年度農業所得向上祈願 (7/8)

県農協農政対策委員会は、八戸市の櫛引八幡宮で2024年度「農業所得向上祈願」を行った。同委員会の常任委員ら16人が神殿に玉串をささげ、県内農作物の豊穰、農畜産物価格の上昇と農家所得の向上、農作業の安全を祈願した。

●自慢のメロン出発 (7/16) 写真11

つがる市、J A ごしょつがるなどで構成する、つがるブランド推進会議は、つがるブランド認定メロンの出荷式を同J A 木造総合支店で開いた。主力品種「タカミ」メロンを中心に約10トナが名古屋、大阪の市場へ向けて出発した。

8月

●令和6年度東北北海道地区J A 女性組織リーダーおよびフレッシュミズリーダー合同研修会 (8/20・21) 写真12

県J A 女性組織協議会役員らは、秋田県秋田市で令和6年度東北北海道地区J A 女性組織リーダーおよびフレッシュミズリーダー合同研修会に出席した。組織活動体験発表では、本県代表のJ A 八戸女性部まべち支部の坂本順子さんが最優秀賞を受賞した。

●りんご販売懇談会 (8/27)

J A 全農あおもりは、弘前市で令和6年度りんご販売懇談会を開き、販売計画や取扱対

8月

策について報告した。令和6年産は系統集荷720万箱(1箱20<sup>kg</sup>、前年産比134%)。販売計画は1200万箱(1箱10<sup>kg</sup>、前年産比133%)に設定した。

9月

●秋田・山形の大雨被害に見舞金 (9/2)

写真13

県農協農政対策委員会は、山形県上山市でJ A 秋田中央会の小松忠彦会長とJ A 山形中央会の折原敬一会長にそれぞれ大雨被害の見舞金を贈呈した。

●全量一等に 2024年産米初検査 (9/11)

写真14

J A 青森は、青森市で2024年産米初検査を行った。常勤役員や関係者など約30人立ち合いのもと、「青天の霹靂」のフレコン4袋(1袋1080<sup>kg</sup>)を検査した。検査結果は、全量一等米に格付けされた。

10月

●「夢ひかり初売り」 2024年産好発進 (10/4)

写真15

J A つがる弘前が出荷した2024年産の早生ふじ「夢ひかり(糖度13%以上のひろさきふじ)」の初売りが、東京・大田市場と大阪市場で行われた。平均価格は東京が1<sup>kg</sup> 7166円、大阪が同7503円。直近5年間と比べ、東京が1605円高、大阪が1392円高と順調なスタートとなった。

●「青天の霹靂」デビュー10周年記念イベント (10/10~12) 写真16

J A 全農あおもりは、「青天の霹靂」デビュー10周年記念イベントをユニバースラ・セラ東バイパス店で開いた。イベント期間中、県産米購入者を対象にユニバースで使える商品券や県産米パックご飯セットが当た





る抽選会を行い、新米「青天の霹靂」の試食も実施した。

●国消国産PRイベント(10/16) 写真17

J A 青森中央会は、青森市で国消国産PRイベント「みんなで知ろう！国消国産！2024！」を開いた。「国消国産が日本の食をつくります」「子どもたちの未来に食の安心をつなぐ国消国産」と書かれた懸垂幕を県農協協会館壁面に掲揚。来場者200人に、国消国産PR資材や「青天の霹靂」のパックご飯、県産リンゴジュースを手渡した。



●次期食料・農業・農村基本計画および令和7年度農業関係予算等に関するJ Aグループ青森の重点要請(11/21・22) 写真20

J A 青森中央会と県農協農政対策委員会は、衆参議院会館で本県選出国會議員8人に「次期食料・農業・農村基本計画および令和7年度農業関係予算等に関するJ Aグループ青森の重点要請」を行った。特に「農業関連予算の十分な増額」、「適正な価格形成の実現に向けて国が一定の関与をする仕組みの早期構築」の必要性などを訴えた。



11月

●国消国産マルシェ2024(11/16) 写真18

J A 青森中央会は、青森市で、国消国産PRイベント「国消国産マルシェ2024」を開いた。J Aや青年部、女性部などが出店した販売コーナーでは、大勢の来場者が買い物を楽しんだ。J Aグループ青森が出店したPRコーナーでは、チラシや国消国産のパンフレットなどを来場者に配布した。

●リンゴかす段ボール(12/2)

J Aアオレンは、りんごジュースの製造で発生する搾りかすを活用した段ボールを開発した。製品としての段ボールへの活用は日本で初めて。3層構造の段ボールの表面紙に搾りかすを10%配合。梱包資材を2万円分作り、全国に向け出荷している。

●第30回J A青森県大会(12/5) 写真21

J Aグループ青森は、青森市で第30回J A県大会を「今こそ結集！協同の力 青森の農業と地域のくらしを守るために」をスローガンに開き、J Aや連合会から約500人が参加した。県内農業課題を共有し、今後3年間で取り組む四つの重点目標を決議した。

●東北6県103「やや良」(12/10)

東北農政局は、2024年産米の東北6県の作況指数が103の「やや良」で確定と発表した。おおむね天候に恵まれ、平年並み以上の作柄となった。県別は宮城が「107」、岩手が「106」で良。青森が「103」、秋田と福島が「102」でやや良。山形はやや不良の「97」となった。

12月

●ジャンボおにぎり完成「はれわたり」初使用(11/17) 写真19

J A津軽みらいは、藤崎町の「第12回ふじさき秋まつり」でジャンボおにぎりづくりを行った。県のブランド米「はれわたり」10俵分(約600kg)を初めて使用した。高さは約2m、正面に海苔でマスケットキャラクターの「ジャン坊くん」の顔と、はれわたりの文字を貼り付けて仕上げた。





# 輝き

農林中央金庫 青森支店  
JA指導相談班  
新田 佳子 さん

●プロフィール  
2023年4月から勤務 青森市 24歳

## — 働くきっかけは？ —

幼いころからの夢であった「農業に関する仕事」と、「大学で学んだ金融の知識を活かすことができる仕事」の両方が叶うと思い、入庫しました。

## — 業務内容を教えてください。 —

規定改正対応や、JAの国庫金検査、照会対応などを行っています。

## — 働いた感想は？ —

指導班での照会対応では自分の知識不足に焦る毎日です。一方で、日々知識が増えていくことのワクワク感と、少しずつ蓄積してきた知識が繋がっていく嬉しさで毎日楽しく仕事ができています。やりがいのある仕事を楽しみながらできていることは、非常にありがたいことだと思っています。

## — 仕事をする上で、日頃心がけていることは？ —

当然のことではありますが、照会対応では相手の立場になって、何を求められているのかを考えながら仕事をするよう心掛けています。正確な情報の提供はもちろん、回答までの迅速さと誤解を与えない伝え方は今後の課題だと認識しています。

## — 特技・趣味は？ —

趣味はゲームで、最近はドラゴンクエストⅢのリメイク版をちまちま進めています。

## — あなたが自慢できることは？ —

継続力はある方だと思っています。10年以上続いている日記は、43冊目に突入しました。1行だけの日も5ページ一気に書く日もありますが、毎日書くことで気持ちを整理できるのでお勧めです。

## — 将来の夢は？ —

業務面では、ロールモデルとしている先輩方のように、豊富な知識で同僚やJAから信頼される人材になりたいです。それが結果として、私が金庫を志望した理由でもある「農家さんに還元できる仕事」に繋がれば良いと思います。プライベートでは、高品質のプロジェクター・スピーカー・ソファを揃えたシアタールームで暮らすことが夢です。

## 後編 記集

HAPPY NEW YEAR.

今回の写真は「北金ヶ沢の大イチョウ」です。国の天然記念物で推定樹齢1000年以上、高さ約31m、幹周り約22mの日本最大級のイチョウの木で、11月30日撮影。テレビのニュースを見て家族で行きました。ライトアップ前後の写真ですが、とてもキレイでした。

皆さんは行かれたことありますか。

それでは皆さん、「SEE YOU ON FEBRUARY!!」(一)



## ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>  
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>  
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>  
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>  
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。

# 請求はお済みですか？ 特例一時金！！



※農林漁業団体にお勤めだった方！

農協、漁協、森林組合など

まだ年金一時金を貰っていない、

特例一時金の請求期限が

平成14年4月1日以前に1年以上の農林年金の組合員期間がある方は、  
特例一時金を受取できる可能性があります。

令和7年 **3月31日** と迫っています！

**確認！**

**住所が未登録の方は請求案内をお届けできません！**

農協や漁協、森林組合、土地改良区、厚生連病院などを平成9年1月までに退職された方や、  
結婚で名字が変わったり、県外に引越されている方が住所未登録の可能性あります！  
一度、自身の確認のため下記フリーダイヤルまでお電話ください。

※農林年金の対象団体は、農協、全農（限農、ホクレン）、全共連（共済連）、中金（百連）、厚生連（厚生連病院、厚生病院）、漁協、信漁連、漁船保険、漁業信用基金協会、漁業共済、森林組合、酪農協、開拓農協、農業共済組合、土地改良区、土地改良連合会、農業会議、農業信用基金、たばこ耕作組合、農事組合法人などです。



**農林年金**  
農林漁業団体職員共済組合

〒110-8580 東京都台東区秋葉原2-3

住所登録センター

☎ **0120-199-155**



農林年金  
ホームページ



X  
@norin\_nenkin

[ 平日9時～17時 番号のかけ間違いにご注意ください ]

# 知る、活かす、つなぐ

～JAグループ情報共有運動～



JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。

## Q 日本農業新聞



全国約30万部発行。  
全国のJAが出資し、農業の専門紙  
では唯一の日刊紙。  
農家組合員とJAグループ、地域を  
つなぐ全国メディアです。

## Q 日本農業新聞公式サイト



月間ページビュー数約90万。  
農業関係者だけでなく、幅広い年代の  
ユーザーに閲覧されています。  
Yahoo!ニュース、SmartNewsなどから  
も多数のユーザーが流入しています。

## Q フレマルシェ



全国約25万部発行。  
JAのファーマーズマーケットを  
中心に配布している消費者向けフ  
リーペーパーです。メイン読者層  
は30代～60代の女性です。

お問い合わせ先：日本農業新聞広告部

Eメール [koukoku@agrinfo.co.jp](mailto:koukoku@agrinfo.co.jp) TEL 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

# 日本農業新聞



# 家の光

IE no HIKARI

お申し込みはお近くのJAへ

定価(税込) ●普通月号629円 ●特別月号(1・4・5・7・9月号)922円 ●12月特別号1,027円

JAグループ 家の光協会 〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11 TEL. 03 - 3266 - 9039 <http://www.ienohikari.net/>

イ  
キ  
イ  
キ

記事活用で楽しく

ワ  
ク  
ワ  
ク

読み応えある記事に

ぜひ  
ご購入  
ください!

